NICU留学記

2009年３月より，神奈川県立こども医療センター新生児科では全国の若手医師を対象とした「新生児医療のための短期有給研修医制度」をスタートさせました．７～９月号では，短期研修医の同僚として１年間にわたる長期研修生活を送った下風先生の留学記を，番外編として紹介します．

留学生：下風朋章
山形大学医学部附属病院小児科
→神奈川県立こども医療センター

研修期間：2009年４月１日～2010年３月31日

第２回：矢のように意見が飛び交う回診

よくある日常の様子です．当直医が入院依頼と病棟の様子を報告し，引き続き，各主治医が新入院や変化のあった児についてプレゼンし，そしてベッドサイドを回ります．この朝回診，最初のうちは驚きでした．矢のように意見が飛び交い，プレゼンする立場は診断や治療に対する自分なりの意見が求められます．ただし，いじわるな物言いではなく，良い医療へ妥協しない結果だと思います．アカデミック，倫理的な議論のいずれも活発でした.「上司の意見だからそれに従って」という雰囲気はなく，しっかり診ている人，患者さんに適したことを述べた人の意見が尊重される気風と感じました. 朝回診に続いて，週２回の抄読会です．主に病棟で話題になっているトピックスが読まれ，これも同様に意見が交錯し，盛り上がっていました．

入院は，１日に平均１～２人で，スタッフとレジデントのペアが主治医になります．手取り足取りの指導はなく，基本的にレジデントが主体となり診療にあたります．研修医は単なるシンプルワークの手兵ではなく，尊重されていたと思います．むろん，困ったときには助けてもらいました．蘇生に立ち会った人が，主治医になるのが一般的でした．受け持ち数や重症度も勘案し，無理なときは「パス」することも可能でした．待機患者リストは，28週未満が約５人，心疾患２～３人，外科疾患２～３人，髄膜瘤１人と，おおむねこんな感じです．この赤ちゃんが順に生まれ（時には一斉に），さらに他院から紹介や出迎え搬送で入院します．また，緊急帝王切開も昼夜なくあります（夜の方が多い？）．

当直は，平日は１人で休日は２人．重症度の高いNICU21床を当直医だけでカバーするのは，結構大変です．当直医以外もお互いに助け合いながら，何とか切り抜けているようで，まさに薄氷を踏む日々です．眠れた，眠れないというような判断基準でなく，無事に朝を迎えることでほっとするような当直でした．

●留学記録　朝回診の風景です．